

気をつけましょう

豚

▲分娩準備と火災予防を▲

分娩予定日の10日くらい前から妊豚は分娩房に移し、分娩予定数日前から夜間は便所との扉を閉め、便所での分娩を未然に防止しましょう。また敷藁は圧死防止のため、新生子豚の跂蹄がもつてないよう3、4cm以下に切ってやりましょう。

だんだん寒さが加わるにつれて、子豚の保温に電熱が使われますが、火災予防には十分留意しましょう。

▲分娩前後の減食で乳房炎防止を▲

分娩の少し前には胎子は栄養分をさほど必要としなくなり、また妊豚は妊娠末期にはとかく便秘をおこしがちとなります。分娩予定日の1週間くらい前から飼料給与量を少しずつ減らし、分娩日にはそれまでの半量程度になるようにします。青物類を十分与えますと便通がよくなり、乳房炎の予防にもなります。

鶏

『若雌の管理』

産卵を開始した鶏は生理的負担が大きいため、一寸した管理や、資料の欠陥に対しても鋭敏に影響し、部分換羽をおこしやすいから十分な注意が必要です。

若雌に対してはできるだけ開放飼育を行い、低温に対する抵抗力を増し、健康的な鶏を育成するようにしなければなりません。環境の急激な変化に対しては、速急に対策を講ずることが必要ですが、同時に鶏に抵抗性を与え、環境の変化に対して抵抗力のある鶏を作出するよう考慮することが大切になります。

若雌を移動する場合には、初産前に実施することが望ましい。特にバタリーやケージに移す場合は、産卵を始めたものの移動は休産を伴いやすいものです。

回虫、条虫等の内寄生虫は秋口に多発するのでピペラジン、ビチオノール等の駆虫薬を用いて、出来れば頓服するのが有効です。

草

▲牧草地の手入れ▲

放牧地は必ず掃除刈りを行い、来年の芽立ちをよくすると同時に、牧草地の酸度を測定して、炭カルの施用量を決め、またお礼肥として3成分各々4～5kgを施しておきましょう。

▲サイレージの品質▲

サイレージは牛が喰べるからといって安心してはいけません。品質の悪いものを長く与えていますと、受胎が悪くなったり、ケトージスやいろいろの障害を起す原因になります。先づ自分のサイレージの品質が良いか悪いかを調べておき、来年の詰込み時の参考にしよう。品質の良否は、指導員や普及員の人に見てもらるか、自分で判定しましょう。PH試験紙で簡単に測定でき、PHは3.5～4.2が一番よく、それ以上では良くありません。手で握ってみて、指の間から水が滲みでる位でも水分はやや多すぎます。薄い黄褐色（但し甘しょづるを除く）で快い酸臭があり、酸味があるのが良いものです。ベトベトし、色が黒みがかつたものはよくありません。